

新春を言祝ぎ 謹んでお慶びを申し上げます

サーマルタンクの新洋技研工業です。本年が喜び多き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年は世界文化遺産として「富士山」が、無形文化遺産として「和食」が登録されました。とても喜ばしいことですよね。日本は知的・美的、そして人的にも優れた国であると思います。

日本の中になると当たり前のようなことでも、一步国外へ出てみると、実はすごいことなのだという事に気づかされます。そんなとき「ああ日本に生まれて良かったなあ」とつくづく感じます。

2020年のオリンピック招致に際して「おもてなし」という言葉が流行り言葉のように使われたりしましたが、日本人の心根には「人様を立てる、喜んでいただくことを我が喜びとする」氣質が脈々と受け継がれている、だからこそ日本の伝統文化が世界に通用しているのではないかと思います。また私たちが使う「日本語」には感情を言い表す言葉がとても豊富にあります。恐らく日本語ほど多様な言い表し方を持つ国は、そうは無いのではないのでしょうか？

しかし昨今はどうも日本人であることに自信を失わせてしまいそうな報道が多いように感じます。それはとても危険なことだと思います。自国を誇りに思える題材はたくさんある。それをメディアはもっと前面に出して欲しい、自国を誇りに思えずして世界では戦えない：そのように思います。

今年は冬季オリンピック年、是非選手の皆さんには日頃の成果を思い切り発揮して世界の舞台で大いに活躍をしていただきたいものですね。

それでは本年も変わらぬご愛顧のほど、宜しくお願い申し上げます。



日本の野鳥シリーズ

技術営業部 佐藤 弘

吉祥の鳥カササギ

本種は翼を開くと白い風切羽根一枚ごとの先端と前縁が黒く縁どられ、白と黒のパターンが美しい(ネットで映像をご覧あれ)カラスの仲間だ。模様的美しさはピカイチだろう。また「カシャカシャ」という鳴き声が縁起よい「勝ち勝ち」に聞こえるとして、戦国大名が朝鮮半島から連れ帰り野に放したという説がある。しかし、生態も知らない異国の鳥を捕まえ、そのうえ餌づけする技術が400年も昔の我が国にあったとは思えない。

本種の分布は一風変わっていて、九州と北海道に限られた地域に棲息している。北海道グループの来歴は容易に想像できる。大陸から間宮海峡をひとつ飛びに樺太へ渡り、宗谷海峡を越えれば北海道だ。競合種のトビやカラスにうるさく干渉されない、室蘭辺りを安住の地にしたようだ。春の新潟で度々姿を見た本種は、陽気に浮かれて津軽海峡を越えて来たものと思うが、同時に、適応できそうな環境はないか偵察に来たと考えるのは的外れの深読みか。

2012年春に中国華中地方のツアーに参加した。現地ではトビもカラスもまったく見かけなかったから、カササギには天国だ。群れないし数は多くないが、都市と近郊で普通に見られた。現地ガイドの範さんは、本種は幸運をもたらす鳥として中国では大切にされているという。

水郷鳥鎮(ウーチン)の通りを散歩中のこと、ネコなど居ないとみえ鳥カゴが三つ地べたに置いてあった。鳥キチとしてはどんな種か確かめないテはない。一羽は本種、他は客家鳥(ハッカチヨウ)とキジバトだった。まっ黒のハッカを九官鳥と勘違いした同行者が「ニイハオ」と呼びかけたらそのまま返したから周りは笑いの渦だ。しかし食材について幅広い食文化を持つ国で、なんの芸も愛嬌もないキジバトが飼われていたなんて、思わず苦笑い。

昔の越後平野には居なかったが今は普通に見られ、繁殖もする鳥種はずい分多い。これは自ら分布域を広げる適応力の表われで、なにも新潟に限ったことではない。本種が朝鮮半島から対馬経由で九州へ飛んで来るのはわけもないことだろう。

“あいさつ”



技術部長 事業部・ト・新規事業 PJ 山本知男
先だって姪っ子の結婚式がありまして、そこで「余興でクラリネット吹いて」って言われて引き受けました。姪っ子からはエルガーの“愛の挨拶”をリクエストされまして、これは聞けば誰でもすぐ分かるきれいなメロディの可愛らしい素敵な曲です。このエルガーさん、結婚は遅かったとの事。年取ってから若い奥さんを貰い、ほどなく可愛い娘が生まれ、年取ってからの娘ですから、それはそれは可愛がったそうで、その娘と愛する奥さんに向けて作られたのが、この曲だそうです。本当に愛のこもった美しい曲です。

で、この“挨拶”ですが、最近家族間では省略されることが多いと聞きます。気恥ずかしいとか今更言うのもとか、言わなくても分かるでしょとか、いろいろあるようですが、それは違うと思います。挨拶しなくなると段々話も億劫になり、大事な話を省略してしまう事にもなりかねません。特に夫婦（特に男性陣）では言わなくても分かる、以心伝心とか古い考えがあるんじゃないでしょうか？ 今はそれをやると“倍返し”で気付いた時は“じょじょじょ”の熟年離婚になってしまいます。挨拶から始まっているんな事を話したり相談したり、それが夫婦円満の秘訣ですよって、スピーチさせて貰いました。

まあ演奏の方は、私としては感情込めて頑張ったつもりですが、うるさいママさんからは「呑み過ぎてフラフラしながら吹いてたよ」ってダメ出しされました。「いやいやリズム取りながら演奏すれば、こうなるでしょ」って弁解しましたが、演奏前に三合くらいは呑んでいて、やっぱり呑み過ぎたかなと、ちょっと反省でした。（ちなみに他の方からは絶賛されました。ま、みんなも呑み過ぎてましたけどね）

さて、このDMが皆様に届くのはちょうど正月明け辺りとの事なので、“新年の挨拶”替わりになるわけですね。平成 25 年はアベノミクスや消費税前やらの影響なのか、弊社も多くの仕事をいただきました、ありがとうございました。さて、明けた平成 26 年はどんな年になるのでしょうか？少しでも明るく上向いてくれれば良いと思います。皆様にとっても弊社にとってもいい年でありますように、それでは良いお年をお迎え下さい。

◆ ちょっと豆知識 ◆ その 18 「過ぎたるは及ばざるが如し」

技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。さて、前職でもあちこちのお蔵の様々な取り組みを見させていただきましたが、転職後は尚のこと世間は広いと申しますか、思いもよらない出来事に会うことが数多くあります。今回は昨秋出くわした、自身非常に勉強になった事例をご紹介しますと思います。

2013 年 9 月、あるお蔵から 2006 年に納入したステンレスパネル廻室の内部にあちこち錆が浮いている、現状を確認しに来て欲しい旨ご連絡をいただき、そのお蔵を訪ねました。

現場を確認すると、電線を配すのに設置した塩ビ管に沿って、多数の細かい錆が発生していました。天井を貫通している部分もありましたので、雨漏りで侵入した水が悪さをしたかと思い、天井の裏を確認してみましたが雨漏りの形跡は無し。

現場の責任者に話を聞くと、春に造りを終えた後、オスバンで内部を清拭し、殺菌用の UV 灯を点けた状態で室を閉じ、25BY の準備をしようとしたところ異変に気付いた、とのこと。

廻室内部をよく観察すると、塩ビ管表面は粘稠な液体が付着しており、指ですくって舐めてみたところ、酸っぱしょっぱく感じました。また、錆は塩ビ管を挟んで 100mm 程の幅で発生し、それ以外のところでは一切発生していませんでした。

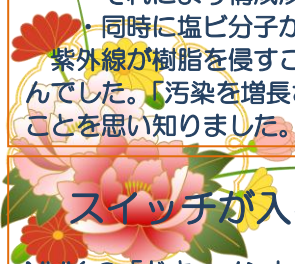
お客様とも様々ディスカッションしましたが、結局その場では原因が分からず、錆を可能な限り除去して会社に戻りました。

帰社後、先に一報を知らせてあった弊社スタッフが、興味深い情報を寄せてくれました。

日本ビニル工業会 HP からの情報ということで、詳細は誌面の都合上割愛させていただきますが、錆の発生はおよそ次のようなことが原因と推察されました。

- ・ UV 灯の長時間照射により塩ビ樹脂が分解（設置後 7 年で限界に達した）
- ・ それにより構成成分である安定剤の金属有機酸化合物が表面に析出
- ・ 同時に塩ビ分子から水素と塩素が脱離し、塩化水素ガスを生成してステンレス表面を腐食した

紫外線が樹脂を侵すことは広く知られていますが、UV 灯がここまで設備に対して影響を及ぼすとは思ってもいませんでした。「汚染を増長させないために」との考えからとは思いますが、何事も過度な行ないは思わぬ事態を引き起こすことを思い知りました。



スイッチが入る

エッセイ

生産部 島貫 修一



NHK の「ドキュメント 72 時間」で、大阪駅のパウダールームを放送した。1 時間 300 円のパウダールームで、女性達が鏡に向き合い化粧を整えていく。番組では「みんなここでスイッチを入れていく」「スイッチを入れ替える」「女にとってもスイッチは色々」と表現していた。この言葉を自分に当てはめてみると、いつどのような時にどんなスイッチが入るのだろうか。

仕事では傷つき錆びたタンクを見ると、補修職人のスイッチが入る。タンクの外科医として必ず治してやるぞ。化学式や反応式を読むと化学屋のスイッチが入る。C₂H₅OH は人を魅了する化学式だ。一眼カメラを持ち街中を歩くと、フォトグラファーのスイッチが入る。狙うは一瞬を切り取るスナップショット。旅先の美術館・博物館で日本刀を見ると、刀剣研究家（見るだけ）のスイッチが入る。好みは備前長船祐定。月一回の歴史勉強会の席に着き、資料に目を通すと歴史好きのスイッチが入る。真田信之・幸村兄弟の生き方の違いが興味深い。最近に乗っていないが、バイクにまたがりセルを回す。キュルキュルパオンとエンジンが始動し、ライダーのスイッチが入る。日光いろは坂で全開モード。

そしてエッセイの締切日の連絡が編集者から来ると、「エッセイストもどき」のスイッチが入る。ところがこのスイッチが不良品でいつのまにか OFF になってしまい、テレビ見たり、雑誌読んだり、昼寝したりしてしまう。そこで今日はスイッチをテープで押さえて強制的に ON にしてエッセイを書いています。明日が締切日だから。